

特定非営利活動法人 サポートセンターたつかーむ 設立趣旨書

地域の中に、「この人たちと、指導するものとされるものという立場をこえて、全く対等に、喜びも苦しみも分かちあって生きることができたら、そして自らの糧は自らづくり、ハンディをもつ者ももたない者も、共にあたりまえに暮らせる社会をつくっていきたい」との願いのもとに、私たちは 1987 年に「北海道そらべつ福祉ファームたつかーむ」を設立しました、17 年間の農場における共働・共生の実践で、私たちは、ハンディをもつ方たちも、自分に任せられた仕事をもつことで働くことの手ごたえ、厳しさ、楽しさを共有し、自信を得、仲間との親密な関係づくり、経済的に自立し、その人らしく地域で生き生きと暮らしていくことができることを実感してきました。

この間、ノーマライゼーションの理念のもとに、「施設から地域へ」という大きな転換があり、様々な福祉政策やシステムが生まれています。しかし、現実には、障がいや高齢、疾病、生活環境等により生じるハンディの程度や種別に関係なく、「地域社会の中で普通の暮らしをしたい」というハンディのある方やその家族の思いを大切に、総合的な暮らしを支えるシステムやサービスはいまだに不十分と思われます。そのためにハンディのある方やその家族は、地域社会の中で当然受けられるはずのサービスを十分に受けることが出来ず、その多くが家族介護によるケアで支えられていたり、地域を離れて施設のみで暮らすという選択肢しか残らないという現状にあります。

実際に地域生活をおこなう上での選択肢が制限されていることが問題であり、地域での必要なサービスやシステムをすぐに提供できる環境作りが急務になっています。

そこで、「北海道そらべつ福祉ファームたつかーむ」では、17 年の実践で培った、ハンディをもつ方たちに対する姿勢、そしてサービス提供のノウハウを、より多くの地域に暮らす方たちに生かすべく、サポート部門を発展・独立させて、特定非営利活動法人 サポートセンターたつかーむを設立します。

サポートセンターたつかーむでは、ハンディのある方やその家族とともに、地域生活を安心して行えるためのシステム作り、暮らしの細部にいたるまでの総合的な支援を展開します。

具体的には、

- ハンディのある方と、その家族の方のための地域生活支援サービスの提供
- 地域生活をおこなう上で必要な、相談・情報提供活動
- 安心して暮らせる町づくり、地域づくりの支援及び実践

をおこないます。

私たちはこれからも、特定非営利活動法人の活動として、ハンディをもつ者ももたない者も共に生き、働くことのできる社会の実現をめざし、同じ思いをもつ多くの人々、団体と連携をとりながら、情報の発信をおこない、社会に働きかけていきます。

2004年10月28日

設立代表者 高野 律雄